

六甲山地の歴史的な砂防施設(五助堰堤、杣谷堰堤)が「登録有形文化財」になりました！ 平成26年10月7日登録

国土交通省の砂防堰堤(五助堰堤及び杣谷堰堤)が、文化審議会の審議を経て、登録有形文化財(平成26年10月7日登録)になりました。

今回登録された2箇所の堰堤は、近畿地方の国直轄砂防堰堤で初めての有形文化財となります。

ごすけえんてい

◎五助堰堤(住吉川) <登録基準*: ③再現することが容易でないもの>

六甲山地の砂防堰堤の内、最大級の規模を誇る砂防堰堤です。五助堰堤は法面部及び天端部の外面が石積みタイプの重力式砂防堰堤で、堤高30m、堤長78mの六甲山地の砂防事業における最大級の堰堤であり、堤体表法面は間知石を用いた美しい谷積み(矢羽小谷積み)となっています。

その化粧積石の美観は、六甲山地の砂防堰堤の中でも最も優れたものの一つと言えます。

<諸元>

所在地	神戸市東灘区本山町岡本字六甲山1314-31			
	神戸市灘区六甲山町五介山1877-40,1877-42			
構造・形式及び大きさ	構造	練石積構造		
	形式	重力式砂防堰堤		
	本堰堤	高さ 30.0m	長さ 78.0m	天端幅 3.1m (昭和32年3月竣工)
	副堰堤	高さ 10.0m	長さ 32.5m	天端幅 3.0m (昭和33年3月竣工)

<写真>

		
工事中(石積み作業)	完成当時	全景
		
美しい石積の表法面	本堰堤の構造図	登録証・登録プレート

◎**杉谷堰堤(都賀川)** <登録基準*: ②造形の規範となっているもの>

六甲山地の砂防工事で初めて建設されたスリット型砂防堰堤です。スリット型砂防堰堤は土石流の土砂を一旦貯め、その土砂を中小洪水で少しずつ流下させ、貯砂容量の回復を図ることを目的としています。

杉谷堰堤は、スリット型の有効性の検証の為に建設したもので、**日本初のスリット型砂防堰堤**です。

なお、現在ではスリット型の有効性が確認され、全国に多くのスリット型砂防堰堤が建設されています。

<諸元>

所在地	神戸市灘区大石字長峰山4-67, 4-68, 4-287, 4-291, 4-293						
構造・形式 及び大きさ	構造	コンクリートスリット構造					
	形式	重力式砂防堰堤					
	本堰堤	高さ	16.0m	長さ	77.5m	天端幅	2.0m

<写真>



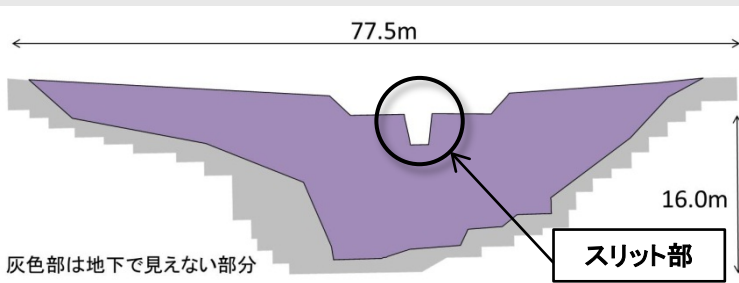
完成当時



堰堤本体



スリット部



スリット堰堤の構造図



登録証・登録プレート

～登録有形文化財(建造物)とは～

平成8年10月1日に施行された文化財保護法の一部を改正する法律によって、保存及び活用についての措置が特に必要とされる文化財建造物を、文部科学大臣が文化財登録原簿に登録する「文化財登録制度」が導入されました。

この登録制度は、近年の国土開発や都市計画の進展、生活様式の変化等により、社会的評価を受けるまもなく消滅の危機に晒されている多種多様かつ大量の近代等の文化財建造物を後世に幅広く継承していくために作られたものです。届出制と指導・助言等を基本とする緩やかな保護措置を講じるもので、従来の指定制度(重要なものを厳選し、許可制等の強い規制と手厚い保護を行うもの)を補完するものです。

*登録の基準

・原則として建設後、50年を経過したもののうち、**①国土の歴史的景観に寄与しているもの、②造形の規範になっているもの、③再現することが容易でないもの**です。